

## 『アテネオリンピック大会』を観戦して

三重陸上競技協会 会長 向井 孝治

1964年、東京オリンピックで陸上競技役員として参加し生涯最高の体験をさせてもらってから40年を経た今年、2004年アテネオリンピックを観戦する機会を得ることができました。特に、女子マラソン日本代表となった三重陸協から大きく成長した野口みずき選手の活躍を期待しながら、アテネの地に足を踏み入れました。

アテネオリンピックは、大会当初から柔道・水泳を中心として日本選手の目覚ましい活躍で金メダルラッシュとなるうれしいニュースがあり、『陸上競技でも後に続く栄光を獲得してほしい』と願いながら五輪スタジアムを訪れました。完成を懸念された競技施設は開会までにすべて完成し、世界の人々が集結した人の波は怒涛の勢いで競技場に集結していました。7万人余り収容の五輪スタジアムは満員のスタンドで国旗を掲げたり、全員立ち上がっての拍手や歓声で自国選手に送る応援のパフォーマンスの賑やかさは国際色豊かで『さすがオリンピックだ』と強く印象づけられました。

女子マラソンの日の8月22日、ゴールとなるパナシナイコ競技場に行きました。この競技場は1896年第1回オリンピック大会の開催された競技場で直走路が約200mで一周500m余の細長いグラウンドで、当時の姿そのままに改修整備してマラソンのフィナーレを飾るゴールになったことを聞き、日本選手の好成績を祈りながらスタンドに席を取りました。スタート時の午後6時にスタンドは満員に近い入場者があり、方々で各国の国旗が振られていました。目立ったのは世界記録を持つラドクリフのイギリス国旗でした。日の丸もあちこちに目につきました。

国際色ムード一杯の中で競技場に設置された大型映像装置を通して競技の状況を眺めました。気温35度の中の厳しいレースとなりましたが、スタート直後から先頭集団を離れずに力走する日本の三選手に声援を続けました。ラドクリフの近くで小柄な野口選手の力強い姿がいつも目につきました。25km過ぎに野口選手が先頭に出た時は『早過ぎないか』と心配しましたが、併走する選手や優勝候補のラドクリフを尻目に先頭を走る姿に思わず『行け、行け』と声を出しました。終盤近くで先頭の野口選手と2位の差が30秒余りだったのが、18秒差に接近した放送を耳にし、『何としてもこのままゴールに入ってほしい』と必死で神に祈る思いがしました。

競技場に先頭で入った野口選手の姿に歓喜の思いでスタンドを降り、競技役員に制止されながら柵に近づき、『みずき、逃げよ』と大声で叫びました。ゴールの瞬間は『やった、やった』と近くの仲間と握手を交わして叫びあいました。栄光の金メダルを獲得した感動に涙が出て止まりませんでした。近くに陣取った日本人だけでなく、外国の方からも祝福の握手を受け、さらに大きな喜びを味わいました。

この日、野口選手の優勝の喜びに浸った後に訪れた五輪スタジアムでは、男子ハンマー投決勝で室伏選手の金メダルへの見事な投擲もあり、日本の陸上競技が光り輝いた最良の日となりました。特に、三重で育ち

世界の檜舞台で輝く栄光の金字塔を達成した野口選手には心からその健闘を讃えて祝福するとともに、更なる飛躍と発展を大きく期待するばかりでした。そして、また、三重陸協から野口選手に続く選手の輩出と協会の限りない前進、向上を強く祈念せずにはいられませんでした。

アテネのホテルでは日本語新聞の号外が配布され、史上最高のメダルを獲得した日本選手団の活躍は手に取るように理解できましたが、野口みずき選手の金メダルの活躍は私の心に最高で最大の喜びを与えてくれました。

2004年アテネオリンピック大会の観戦は私の生涯にまた忘れられない貴重な思い出を残してくれました。

野口の金メダルの貢献者として  
山本 顕 先生 (宇治山田商高) が  
『スポーツ功労者顕彰』を受賞

宇治山田商業高校の山本顕先生が野口選手の金メダル獲得の一翼を担った指導者として、文部科学省から『スポーツ功労者顕彰』を受賞されました。現在の指導者のグローバリーの藤田監督の推薦を受けて発掘期の指導者としての功績を讃えられました。先日、東京で授与式が行われました。おめでとうございます。これからの一層の活躍を期待しています。

kouou5.TXT